



**1.5℃目標を実現する  
『脱炭素時代』はこうつくる**

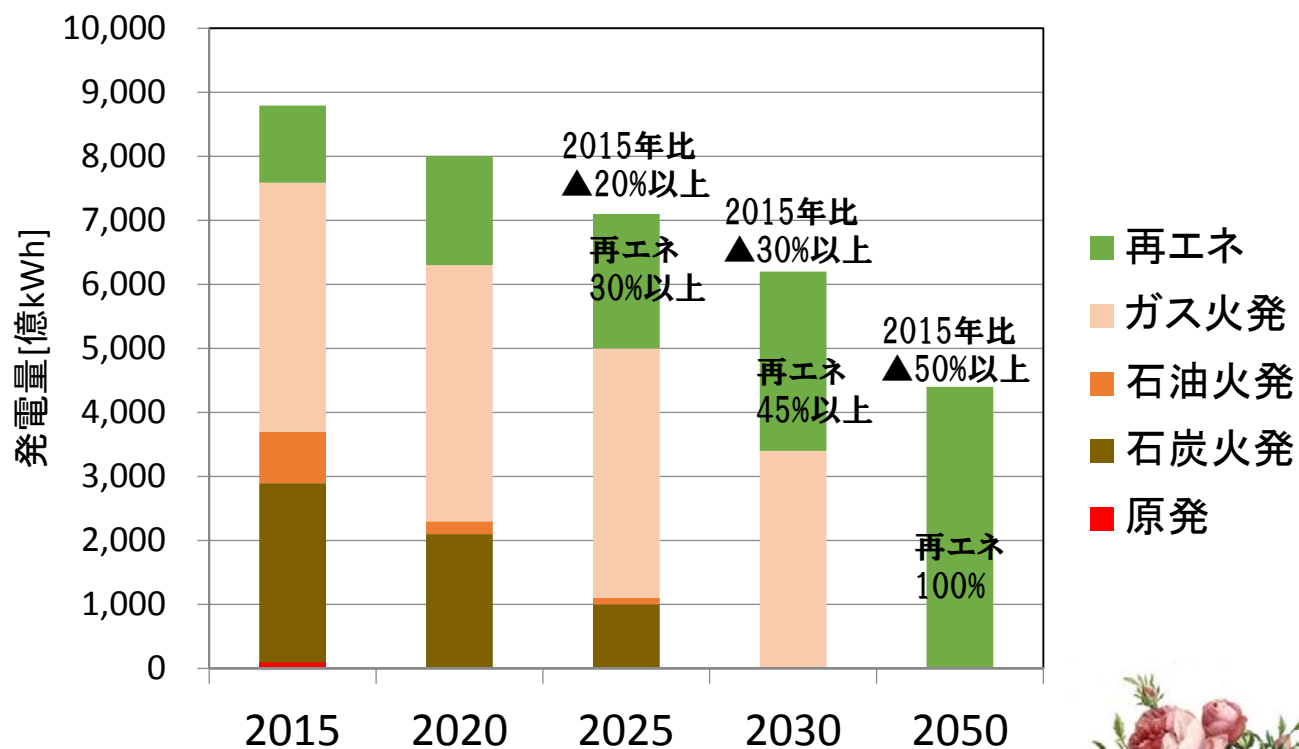
*Ayako's Room*

# 脱炭素社会実現のイメージ

CO2排出量2010年比で2030年45%、2050年実質ゼロ(世界全体)

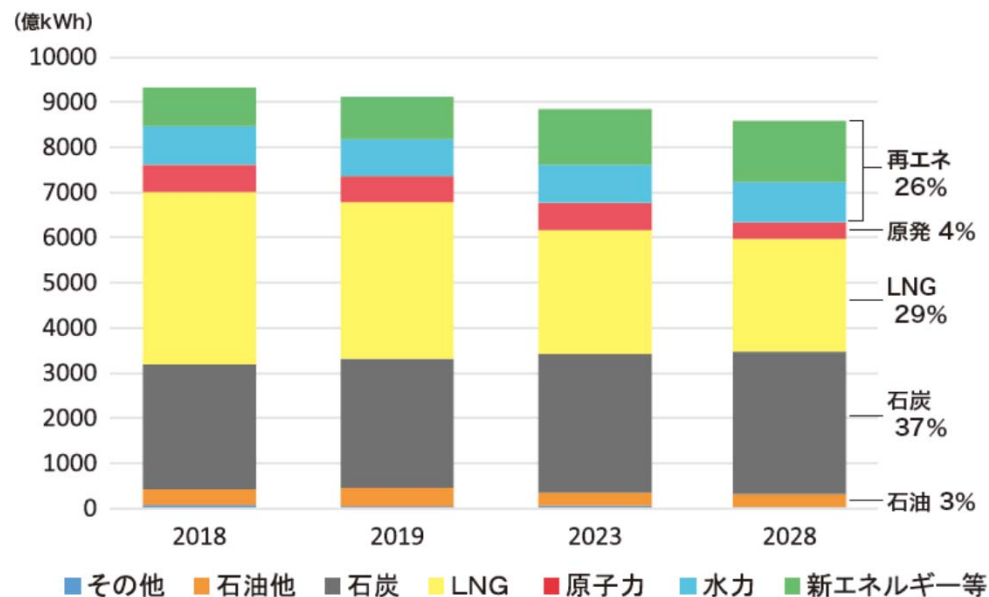
・あと30年で、太陽光、風力など再生可能エネルギー100%の社会に変わっている。

・化石燃料（石油、石炭、天然ガス）は燃やさない（燃やせない）。



# このままだと日本では 脱炭素社会はつukれないことに・・・

- ・京都議定書の頃から何も変わらない政策  
産業界の「自主的取り組み」→化石燃料から脱却できない。減らないCO2。  
“民生・家庭部門”の削減への過剰な期待（こまめな省エネなど）



出典：電力広域的運営推進機関「2019年度供給計画の取りまとめ」

・グラフは、電気事業者による10年後の電力消費量の見通し。日本のエネルギー政策に基づき、火力発電依存の構造が続くことに。政府が見通す2030年石炭26%、LNG27%も上回る。



# 1.5°C目標を実現する脱炭素社会を実現し 気候の危機を回避するために

## 将来像（脱炭素社会実現のイメージ）・目標の共有化

・社会全体で気候危機と脱炭素社会の実現を共通の目標とする（イメージする）

・大規模集中型電源（原発・石炭）から地域分散型エネルギー（再エネ100%）へ

・重工長大産業（鉄鋼・セメント・化学工業）からの構造転換／サーキュラーエコノミーへ

・コンパクトシティ、脱炭素型の移動手段へ

やるべきこと、やめるべきこと、変えるべきことの整理。

## 行動（アクション）

・パワーシフト、ダイベストメント、市民共同発電、省エネ実践、地産地消、住宅の排出ゼロへ、交通手段や食の見直し、脱炭素の衣料などなど（脱炭素化行動）

・石炭火力新規建設など不要なもの（CO2排出を増やすもの）に対する反対アクション

## 社会変革・制度化

・1.5°C目標に整合した削減目標やエネルギー政策への早期見直し

・火力発電フェーズアウト計画の策定

・カーボンプライシング導入／再生可能エネルギー100%ロードマップ

・新しい未来を市民参加のしくみをつくる

